

「東京の玄関口」再開発 続々

京急、品川の複合ビル 規模3倍に

高まる利便性、競争激化

京浜急行電鉄は品川駅前の複合ビルを2027年前後に建て替える計画だ。延べ床面積を3倍の約25万平方㍍に広げる。東海旅客鉄道（JR東海）のリニア中央新幹線が27年に開業する品川エリアはホテルやオフィスの引き合いが高まる判断した。20年五輪の開催に加え、羽田空港の発着回数の拡充など交通インフラの整備も進み、都心で再開発が相次ぐ。東京の「玄関口」を巡るビル需要の獲得競争が激しさを増してきた。

品川駅は京急が運行する羽田空港へのアクセス。交通の要所として再開発が進むほか、リニア中央新幹線や山手線などが乗り入れているほか、リニア中央新幹線27年に開通予定

（JR東日本）や西武ホテルデイングスも大規模な計画を検討している。京急は品川駅周辺に約6万平方㍍の土地を保有している。建て替える「シナガワグース」（港区）は駅前の2万5000平方㍍に立地する複合施設だ。建て替え後は現在のビルデイングスホテルに加えオフィスや会議場、住宅を備える。投資額は700億～800億円規模になるとみられ、19年度の着工を目指す。

シナガワグースを含むエリアを一体で開発できるように、駅近くにある京急本社を19年に横浜市に移転して用地を捻出する。容積率の緩和に向けた国家戦略特区の申請もある。ホームを1階に移



品川エリアの再開発に本格的に着手する（東京都港区のシナガワグース）

画が本格化する。とりわけ東京駅から品川駅かけての町並みは大きく変わった。東京駅周辺では三井不動産や東京建物が地上50階建て規模のビルを20年前半までに相次ぎ完成させた計画がある。

都内で再開発が相次ぐのは1964年の東京五輪のころに建設したビルが老朽化しているため。15年前には東北本線・高崎線が開通する。人口が減少する中でオフィスやホテル、住宅の需要を獲得する都心の競争が熱を帯びそうだ。



シナガワグースを含むエリアを一体で開発できるように、駅近くにある京急本社を19年に横浜市に移転して用地を捻出する。容積率の緩和に向けた国家戦略特区の申請もある。ホームを1階に移

転する。西武ホテルデイングスは品川プリンスホテルなどが立地する品川駅周辺では2階に新駅を暫定開業する。西武プリンスホテルなどを立地する品川駅周辺では2階に新駅を暫定開業する。西武